
[成果情報名] *Sphaceloma* sp. によるシャリンバイそうか病 (新称)

[要約] シャリンバイの葉や新梢に、赤褐色、円形の小斑点が発生し、葉が変形する病害が発生した。病斑部からは *Sphaceloma* 属菌が分離され、新葉に対して病原性が認められたことから、本病を「シャリンバイそうか病」とすることを提案する。

[キ - ワ - ド] シャリンバイ、シャリンバイそうか病、*Sphaceloma* sp.

[担当部署] 病害虫部・病害チ - ム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作目] 花き・花木

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 生理生態

[背景・ねらい]

最近、県内のシャリンバイ生産現場で、葉や新梢に赤褐色、円形の小斑点が発生し、葉が変形する被害が発生した。そこで、本障害の発生原因を明らかにするため、病斑部から菌を分離するとともに病原性を確認し、病原菌の同定を行う。

[成果の内容・特徴]

1 . 4 ~ 5 月頃、葉や新梢に赤褐色、円形の小斑点を生じ、葉が変形するのが典型的病徴である (図 1)。

2 . 分離菌の分生子は楕円形 ~ 紡錘形、無色、単胞、大きさは $4.8 \sim 8.4 \mu\text{m} \times 2.4 \sim 4.5 \mu\text{m}$ で、菌糸は $5 \sim 30$ で生育し、最適生育温度は 25 であった。PDA 培地上での菌そう生育は遅く、最初白色でのちに黄白色 ~ 赤褐色の粘塊となった。分生子の形態及び大きさと培養性状等より *Sphaceloma* 属菌と同定した (図 2、図 3、表 1)。

3 . 病斑部から分離された *Sphaceloma* 属菌を展葉直後の新葉へ無傷接種した結果、同一病徴が再現され、接種部からは接種菌が再分離された (図 4)。

4 . *Sphaceloma* 属菌によるシャリンバイの病害は未報告であることから、本病をシャリンバイそうか病 (英名 : Anthracnose Leaf Spot) と呼称することを提案する。

[成果の活用面・留意点]

1 . シャリンバイそうか病に対する農薬登録に活用できる。

2 . 今回分離された *Sphaceloma* 属菌の種名については、今後検討する予定である。

[具体的デ - タ]



図 1 現地での発病状況

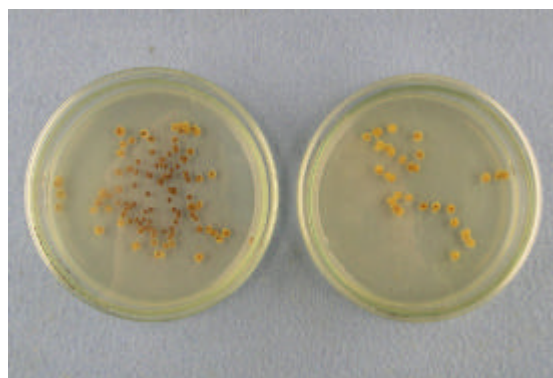


図 2 PDA 培地上での菌そう性状

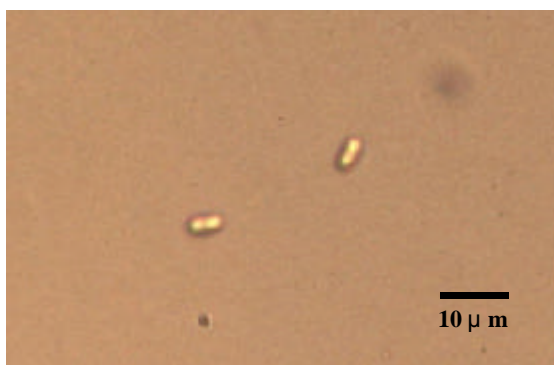


図 3 分離菌の分生孢子



図 4 分生孢子接種により再現された病徴

表 1 シャリンバイ葉から分離された菌の形態的特徴

	分離菌株 (<i>Sphaceloma</i> sp.)	ブドウ黒とう病菌 ¹⁾ (<i>Sphaceloma ampelinum</i>)
分生孢子	楕円形、無色、単胞 4.8 ~ 8.4 × 2.4 ~ 4.5 μm 平均6.6 ~ 3.5 μm	楕円形、無色、単胞 4 ~ 7.5 × 2 ~ 3.5 μm -
菌そう	黄白色 ~ 赤褐色 隆起性、粘塊 培地上で生育遅い	黄白色 ~ 褐色 隆起性、粘塊 培地上で生育遅い

[その他]

研究課題名：突発病害虫の発生生態と防除対策調査

予算区分：経常

研究期間：平成 17 年度（平成 17 年）

研究担当者：梶谷裕二、中村利宣

発表論文等：平成 18 年度日本植物病理学会報講演要旨 72(4)